言葉の魔術師

Cid

言葉を纏う者

言葉は近くに在る物で追いかければ離れて行く。
言葉は遠くの存在で傍目に見たら近くに有った。

言葉を纏う者は私に問いかけた。
「言葉を引き寄せたいのか？」
私は天の邪鬼に答えた。
「言葉は人から与えられるものじゃない。」
言葉を纏う者は私に尋ねた。
「では何故言葉を求める。誰かを求めたいからではないのか？」
私は自己偽証にて答える。
「誰も求めない私の求めた言葉が近くに有れば良い。」
偽証だと思った言葉は吐き終わった時に真実に変わった。
言葉を纏う者は私を指差し言葉を吐いた。
「では好きなようにやれば良い。オマエは誰にも認められず、自己の満足の為に言葉吐けば良い。」
そう私は知って居た。
「言葉だけでは無く、行動、生、仕事、趣味やら動く事其の物が自己満足。」
私は言葉に出して居た。
言葉を纏う者は私の其れに、
「好きにすれば良い。誰にも認められなくともオマエはオマエの言葉纏えば良い。」

で、私は誰で、
言葉を纏う者は誰？

誰も誰かの思い等、
誰も私の思い等、
私は誰の思い等、
私は私の思いの其れすら。
知る事も理解する事もしない。
そう、今、目の前に転がる思考や想像、幻想に、
ただただ一生懸命なれば良い。

誰が此処を現実だと意識付けたのか？
誰に頼まれて此処を現実としていのか？

貴方が思う現実と云う幻想を楽しめば良い。
私が思う幻想と云う現実を掌で転がせば良い。

誰も此処が現実だと実態だと確証する事も提言する事も出来ないのだから。